

(様式第4号)

上田市生涯学習基本構想策定委員会 会議概要

審議会名	上田市生涯学習基本構想策定委員会
2 日 時	令和7年3月24日 午後3時00分から午後5時20分まで
3 会 場	市役所本庁舎 5階 大会議室
4 出 席 者	酒井真由子会長、関和幸副会長、宮下俊哉委員、山崎順子委員、小平千文委員、窪田富子委員、小林真由美委員、坂口純一委員、手塚由花委員、竹田貴一委員、橋詰正委員、松井幸夫委員、山越弘委員、柳沢泉委員、吉村かつえ委員
5 市側出席者	上原晶生涯学習・文化財課長、久保田敦子人権同和政策幹、田中彰中央公民館長、小林博文丸子地域教育事務所長、池田清純真田地域教育事務所長、若林昭武石地域教育事務所長、金田早苗図書館長、小林穰文化政策課長、宮下広志スポーツ推進担当係長、横田知里生涯学習係長、荒井美貴生涯学習係主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍 聴 者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年3月31日

協 議 事 項 等

1 開 会 (横田生涯学習係長)

2 あいさつ (酒井会長)

3 会議事項

(1) 第二次上田市生涯学習基本構想の検証について

- ・資料に沿い、横田生涯学習係長から第二次上田市生涯学習基本構想の検証について基本方針の1、2、3の順に概要を説明、質疑応答

(委 員)

取り組みに対する評価についてAからDまでであるが概ね順調のBとなっている。取組状況を確認すると、項目によっては様々な取組をしており評価をAとしても良いのではないかとと思われるものもあるがいかがか。

(事務局)

生涯学習は短期的に成果が出るものではなく、評価が難しい面がある。単発の事業を捉えるとA評価と考えるものものがあるが、コロナ禍で活動が停滞した時期もあり、継続していかに学びを深めることができたかという視点でB評価としている。

(委 員)

数値目標があって評価をしたということではなく、総合的な判断ということで良いか。

(事務局)

何回実施したというような数値も評価しているが、回数のみを評価するのではなく継続性等も大切に考えて評価をしている。

(委 員)

「ボランティアなどの社会活動の推進 (青年期)」について、中央公民館が高校の探究学習の活動の橋渡しを行ったとあるが、今後探求的な学習の重要性が増していくと思われるので中央公民館のみならずすべての公民館で学びの場の提供に取り組んでいただきたい。

「スポーツ施設の計画的な整備」について、上田市の総合体育館は老朽化が進み、使い勝手も悪い。現在検討を進めていただいているところだが、一層検討を加速していただければありがたい。

上田市文化芸術の観点で、サントミュージゼは学生の交流の場、発表の場として大変良い施設。使用料について改定があり、学生が使用する際の使用料が上がったように思われるが、文化芸術を若い世代から広げていくことができるよう、少しでも使いやすい環境にしていきたい。

(事務局)

今後も公民館として青少年が主体的に参加し、企画・参画出来る機会を提供していきたい。

また、教育委員会としてコミュニティスクールという取組で、主に小中学校を中心に公民館職員が学校と地域の間に入りコーディネート役割を担うなどしている。今後、高校等も含めたコーディネートという視点も考えていきたい。

(委員)

検証シートでは、障がいをお持ちになっていらっしゃる方への取組状況等の記載が全く見られない。そうした取組が必要な状況になってきていると思うが、新たな取組の方向性について検討していただくことは可能か。

(事務局)

今回の検証は、第二次生涯学習基本構想についての検証であり、その内容に沿ったものになっているが、10年を経て社会情勢もかなり変化してきている。学びの権利保障という観点からすると、障がい者のみならず共生社会という捉えかたも必要になってきている。

第三次基本構想策定に向け、どこまで盛り込めるかというところはあるが、必要とされる新たな視点について忌憚のない意見をいただければありがたい。

(委員)

新たな構想に向けた方向性がすべて「B継続」とされている。継続の必要がある取組だということは理解できるが、これだけ新たに視点が記載され取組を強化していきたいという思いが伝わってくるので、ただ継続すると取られがちな表記は残念だと感じる。

(委員)

「伝統芸能の継承と伝統行事への参加」について、今少子高齢化のなかで、子ども達が少なくなって伝統行事をやめていくという地域もある。実際どのような団体と連携しどのような支援を行っているのか。また補助金の交付は大変ありがたいが、補助金以外にはどのような支援をしているのか。

(事務局)

現在の主な活動の支援は、補助金の交付である。その他の取組としては、日本遺産の取組ではあるが伝統文化芸能の発表会を開催し、多くの方に伝統文化芸能を知っていただき、また活動維持の難しさなどを共有する機会としている。

(委員)

市として、高齢者の健康で元気に健康寿命を延ばす目的で、スポーツ推進課、健康推進課、福祉部などでも様々な取組が行われているが、そうした内容も含まれているのか。

(事務局)

生涯学習基本構想は市の総合計画の一つの個別計画にあたるが、スポーツ推進計画や、文化芸術振興に関する基本構想など個々に計画等があり、基本構想ではある程度の方向性を示すもので、具体的な取組は個別の計画で示していく。

(委員)

「(7) 地域の学びを支える人を育てるために」について、唯一取組に対する評価がCとなっている。①について理由がしっかり記載されているが③④については理由の記載がない。説明を聞いて内容が分かったが、資料にも明記していただきたい。

(事務局)

「学んだ知識や技能を活用する機会の拡大」では、公民館まつりや文化祭などでの成果を発揮する機会の提供を行っているが、学んだ成果が適切に評価され、社会で幅広く通用するための環境構築という部分では取組が見えにくいこともありC評価としている。記載方法については見てわかるような資料の作成に努めたい。

(委員)

高校生の探求学習の話が出ているが、そうしたものが社会教育の始まりだと思う。今、公民館の使用料の減免についての議論がなされているが、このような活動を進めていくためには活動をしやすい環境づくりも大切なことだと考える。行政の立場では難しい面もあるかと思うが、利用しやすい環境づくりについてはどのように考えているか。

(事務局)

様々な講座の企画・運営もひとつの取組だが、市民の方々の活動をいかに支援していくかということも重要なことだと考えている。一方、市民意識調査の結果を見ると、公民館の利用について上田市の全人口からすると少ない状況が見て取れる。市民全体に公民館活動を認知し、必要性を理解していただくなかで、結果として公民館利用がしやすくなるなど活動の支援につながれば良いと考えている。

(委員)

取組の検証について、多くのことを書き連ねるより、良かったこと、良くなかったことについて焦点を絞って報告いただいた方が良いのではないかと。

(委員)

個別の事業としてはAであっても、総合的な判断としてBという説明もお聞きしたが、どのようなところがAだったのかという点は気になる。

(事務局)

年度ごとの事業とすれば目標を達成しているものもあるが、それで終わりではなく、複数年継続して活動してそれが地域の活動につながり、いかに定着していくか、地域の方々の主体的な活動につながっているかという観点で評価を考えると、A評価とはできない難しさがある。

(委員)

説明をいただくなかで、継続性があり地域をつくっていくための評価としてAには至っていないという評価をしているということが理解できた。資料作成の際に、生涯学習のなかでの評価の視点や指標をお示しいただくと良かったのではないかと。

(委員)

良かった取組をPRしていくことも大切なことだが、第二次の基本構想を作成し取組むなかで、行政として足りないと思う部分があるのであれば、ある程度の評価基準に沿って次につなげていくことが大事なのではないかと。

(2) 生涯学習に関する市民意識調査について

- ・資料に沿い、上原生涯学習・文化財課長から生涯学習に関する市民意識調査について概要を説明

(委員)

質問項目によっては、年齢別等のクロス集計も行いながら内容の分析をし、今後の取組の参考にしていくことができればよいのではないかと。

(事務局)

今後このアンケート調査を踏まえて上田市として課題を捉え、取組の方向性をお示しする際には、根拠として必要になる部分だと考えており、クロス集計等も含め説明できるようにしていきたい。

4 事務連絡

- ・第3回策定委員会の日程について5月中旬から下旬を予定

5 閉会 (横田生涯学習係長)